学校番号	1005

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	２・３年次
使用教科書	「改訂版　古典Ｂ」（数研出版）						
副教材等	「イラスト資料でつかむ　古文の基礎」（中部日本教育文化会） 「新明説総合古典文法　基本練習ノート」（尚文出版株式会社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年次に触れた古典の世界について、理解をさらに深めていきましょう。
古典を学ぶことは、私たちが使っていることばや慣習のルーツを知り、大切にすることにもつながります。授業で扱う文章は、現代にまで受け継がれてきたのですから、優れたものばかりです。表現の特色などを読み味わいながら、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしていきましょう。

２　学習の到達目標

- 優れた代表的な文章に多く触れることで、古典作品全般に対する基礎知識を高める。
- 現代につながることばや慣習の原点に立ち返り、日本の伝統や文化に対する理解を深める。
- 古典にあらわれる思想や感情をとらえ、現代との違いを考察するなどして、ものの見方や考え方を豊かにする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古典を読んで思想や感情などを的確にとらえたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化および言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等）	記述の確認および分析 （ノート、ワークシート等）	記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
1学期中間	『十訓抄』大江山 古典文法 (動詞の活用復習) 古典常識 (説話文学・娯楽)	構成や展開に即して的確に内容を捉える。 歌合などの古典常識や和歌修辞法、語句の意味、用法を理解する。	○			a　文章のもつ教訓について理解し、実生活に生かそうとしている。 b　和歌の内容と文章の関係をふまえ、登場人物の心情を読み取っている。 c　和歌に用いられている表現技法を理解している。	a 行動の分析 b 記述の確認 c 小テスト c 定期考査
1学期期末	『伊勢物語』初冠 古典文法 (助動詞) 古典常識 (十世紀の物語・服装・貴族の住居)	古典常識、和歌修辞法、語句の意味、用法および文の構造を理解する。			○	c　和歌に用いられている修辞法を理解し、和歌が文章の内容と一体となり表現上の効果を生み出していることを理解している。 c　「して」「に」の識別を理解している。	a 行動の分析 b 記述の確認 c 小テスト c 定期考査
2学期中間	『枕草子』大納言参り給ひて 古典文法 (助動詞・敬語) 古典常識 (調度品・時刻)	構成や展開に即して的確に内容を捉える。 時刻などの古典常識、敬語、語句の意味、用法および文の構造を理解する。		○		b　大納言以外の「女房たち」がとった行動を状況ごとに順にまとめている。 c　「ぬ」の識別を理解している。	a 行動の分析 b 記述の確認 c 小テスト c 定期考査
2学期期末	『平家物語』忠度の都落ち 古典文法 (敬語補助動詞) 古典常識(信仰)	構成や展開に即して的確に内容を捉える。 人間・社会・自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。		○		b　朗詠を行ったときの忠度の心情について、自分の考えを形成している。 c　敬語の補助動詞の用法を理解している。	a 行動の分析 b 記述の確認 c 小テスト c 定期考査
学年末	『大鏡』道長の豪胆 古典文法(副詞・副助詞) 古典常識(平安京)	構成や展開に即して的確に内容を捉える。 古典常識、語句の意味、用法および文の構造を理解する。		○		b　「道隆」「道兼」「道長」の人物像をまとめ、比較している。 c　副詞・副助詞の用法を理解して現代語訳している。	a 行動の分析 b 記述の確認 c 小テスト c 定期考査

※　表中の観点　　a:関心・意欲・態度　　b:読む能力　　c:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。